園黙示録　HIGHSCHOOL OF THE DEAD ～前世から受け継いだ私の気持ち～

OoKaMi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
学園黙示録　ＨＩＧＨＳＣＨＯＯＬ　ＯＦ　ＴＨＥ　ＤＥＡＤ
～前世から受け継いだ私の気持ち～

【Ｎコード】
Ｎ４４９４ＢＡ

【作者名】
ＯｏＫａＭｉ

【あらすじ】
初投稿であります！　ＨＯＴＤが好きすぎて作っちゃいました！
二次創作ものです！
主人公は転生者ですが、ほかの方の作品に転生者が女の子の作品があまりすくなかったので作ってみました！
男女の恋愛要素がなくても・・・・ガールズラブな展開があったりなかったり読めばわかりますので、みてやってください！

第一話　南　玲菜　誕生！（前書き）

いやー、とうとう作っちゃいましたよ自分の作品・・・しかも連載小説体がどこまでもつか心配ですが全力でやらせていただきます

第一話　南　玲菜　誕生！

強い衝撃とともに目が覚める。

「うっ・・・ここどこなの？」

まったく見覚えのない場所だった・・・訂正、真っ白でなにもない空間だった。

えっと私は飛行機で墜落してそのまま死んじゃったはずなんだけど・・・？

まったく見覚えのない空間だから正直、怖いそれで不安。何が起こるか見当がつかない。

ピカッ

目の前が急に光出した。何が起きているのかわからない。その中に人影があるのが分かった。

「誰なの？いったい・・・」

「私は女神です。あなたを転生させるためにここに呼んだ者です」

呼んだ？呼ばれたの？私・・・。なんだか嘘くさい感じがするけど話だけでも聞いてみようかな。

「フフフ、私は嘘をつきませんよ」

「心読まれちゃったの？」

「いえ、心の声も私には聞こえるのです」

「本物なんだ」

正直本気で信用できないんですけど、それに転生って言葉に私は興味がわいた。

「転生はあなたを違う世界に生まれさせて、そこで起きることにチャレンジしてもらいます」

「どこなんですか？それ」

「学園黙示録の世界です。あなたの頭の中にある一番刺激的な世界を用意させていただきました」

「それって漫画の世界ですよね」

そんなこともできるんだ。たしか、死ぬ前に弟の漫画を借りて読んでいた覚えがある、アニメ版も全話みた覚えもある。バイオハザードの世界だったよね？そうだろうけど。

武器とかどうするのかな？簡単に手に入るわけでもないと思うけど・・・。

「あなたには特別な力を3つ与えてあげますよ」

「……」

急に話してきたから驚いた。

「特別な力ってなんですか？」

「まぁ、人より腕力が5倍とか武器をいつでもとりだせるとかです」

「ずるくないですか？それ」

「ずるいですけど、ないとあなたならすぐに死んでしまいますよ？せっかく転生したのにもう無駄にするつもりでしたか？」

んー、自分で決めれないから女神さんに決めてもらおうかな？

「いいですよ」

すると急にカードが3枚あらわれてグルグルと回り始めた。
どうやら出たらしく特別な力を言ってくれた。

「え～と、動体視力ＵＰと軍隊スキルと未来予知　です」
「軍隊スキルってなに？」
「まぁ、軍人みたいに武器に詳しくなって戦闘力もあがるって感じかな？」

だいたいは納得した、とりあえず今与えられた力で学園黙示録の世界でできることすればいいってことかな？

前世で果たすことのできなかった私の友達を守るって事、ちゃんとできるのかな？でも今回は何が何でも仲間を守ろう。私はいつまでも臆病者でいるわけにはいかない！死んでいってしまった私の友達の事も絶対に忘れないから。だから見てて、私もう死なないから死ぬとしても絶対なにかをやりとげて死にたい！それまでは絶対に死なない！

「いってらっしゃい・・・・あなたはイレギュラーなのよ、だからその世界でも他のイレギュラーもいるかもしれないから気おつけてね」
「心得ておきます」

それが最後に聞いた女神さんの言葉だった。

目を覚ますと私は女の人に抱かれていた。とても安心する居心地の良さだった。

「お姉ちゃんに似てとてもかわいい女の子ね」
「そうだな、名前どうする？」
「そうね、リカちゃんあなたが名前決める？」
「わたしぃ？なにがいいのかなぁ？」

どうやら私は元の女の姿のままで転生したらしいね、そして、この家族が私の新しい家族って事なんだ。最初に守るべき人たちだね。何が何でも守ってみせるから。

「愛梨なんてどう？」

お母さんが私の名前の提案をしたらしい

「玲菜なんてのはどうだ？」

今度はお父さんが候補を言ったらしい

「なにそれ？かわいい」
「だろ？リカはどう思う？」

「れいながいい！」

少し話し合ってからどうやら玲菜になったようです。私も前の名前よりしっくりくるので好きですこの名前。

ということでさっそく自己紹介から行きましょう。

私の名前は　南（みなみ）玲菜（れいな）です！現在０歳ですがどうぞよろしくお願いします！！

知っている限り、どうやらお姉ちゃんが床主国際洋上空港でスナイパーをしていた人みたいですね。

年齢は不明ですがとりあえず１０歳年上のお姉さんっていうことです。

まぁ、とくに何もすることなく5歳になりました！私はリカお姉ちゃんをリカ姉ぇとよんでいます。
鞠川静香（まりかわしずか）さんとも出会いました。

「りかぁ～～おはよ～～」
「おはよう、静香。今日も元気だね」
「うん！だって学校行けるんだもん」

玄関でリカ姉ぇと静香姉ぇが玄関で話をしていたので丁度いいからあいさつしとこうと思ったので玄関に行った。

「静香お姉ちゃんおはようございます」
「あ～、玲菜ちゃ～～～んおはよ～～～～」

予想はしてはいたんだけどやっぱり抱きつかれた。このときから胸はありました。

「うっ・・・ぐ・・・くるしいよお姉ちゃん！」
「静香！静香！　玲菜が苦しがってるから！」
「あ～、ごめんね～大丈夫だったぁ？」
「う、うん大丈夫だよ」
「もぉ～かわいい！リカの小さいバージョンみたいでかわいい！」

妙に私につっかかってくる静香姉ぇ・・・ちょっと疲れてくるこの体だとね。

その後、幼稚園で小室君と高城さん宮本さんに会いました。さすがこの原作メインキャラクター達すぐに誰なのかわかっちゃいました。

主人公御一行たちと仲良くなりました。とくに宮本さんとは名前

で呼び合うくらい仲が良くなりました。

「麗ちゃん！遊ぼ！」
「うん！いいよ、遊ぼう玲菜ちゃん！」
「小室君も一緒に！」
「僕は別に・・・」
「いいから来るの！孝も！」
「……」

まぁ、幼稚園児くらいならもっとみんな遊ぶほうが仲良くなれるよね！でも一つ、高城さんが今日は見当たらなかった・・・。

「高城さんどこ行ったのかな？」
「高城ならたぶん家の事だろうと思うよ」
「家ってあの物騒な話のこと？」
「そうだと思うお母さん達みんな物騒とか言ってたもんなぁ」
「へぇ、高城さんも大変なんだね」

このままだとイジメられるかもしれないなぁ高城さん明日から高城さんにくっついておこう。いざとなったらちゃんと助けてあげないと、仲間なんだから。

「小室君は高城さんの事どう思ってるの？」
「ん？別になんとも思ってないよ」

以外にいい人してるね小室君けっこうかわいいかも

「たぶんだけど、そろそろ高城さんいじめられるような気がするんだぁ、その時は小室君の力も借りてもいいかな？」
「うん、いいよ」

「私も協力するよ！」
「ありがとう、小室君、麗ちゃん」

これで準備万端いつでもこい！って感じだね。

次の日・・・・・あっ来た来た！じゃあさっそく！

「高城さん！さっそくだけど遊ぼ！」
「私にかかわってたらアナタも苛められるわよ」
「あら、結構冷たいね高城さん」
「何よ？一体なにがしたいの？」
「今は、高城さん専用の騎士ってところかな？」

ノリで言ってみたけど私まず女の子だから騎士はまずなかったな・・・。
まぁ、結果オーライで収まるかな？

「別にいらないわそんなの」

あら、冷たいこと！まぁいいもん。こっそり後をつけてるから。
ストーカーとか勘違いしないでほしい悪魔で高城さんを守るためなんだから。

とは言ったものの、急にトイレに行きたくなって目を離してしまいましたっ！キリ
早く探さないとまずいかな？
急いで幼稚園中探したけど、教室に最初からいましたっ！テヘペロ

正直こういうとこは原作にも詳しく描かれてなかったから良く分からないんだよなぁ・・・。

でも、そんなの関係ない！言い訳にしかならないから言わない。・・・・そう決めたから・・・。
またどんどん臆病な私がでてきてしまったかな？実行しようと思うのはいいけどいざとなると足がうまく動かなかったりする私がいる。早く治さないと原作開始までに何とかしないと・・・。

とうとう思ってた日がきた。

「うぇ～い！うぇ～い！近寄ってくんなヤクザ！どっかいけ！しっし！」

しっし！は酷いなぁ、一応人間なのになぁ。騎士参上いたしますか！
足はいつもより重いけど大丈夫動かせる。大丈夫、相手は幼稚園児だ怖くない、むしろけがさせそうで怖いなぁ。

「てぇい！」

私は走ってきてその勢いのまま、がきんちょ集団で高城さんに一番悪口言っていたやつにとび蹴りを食らわせてあげた。　もちろん超手加減してだよ

「グスン・・・グスン・・・」
「君たちは高城さんの・・・・いや、沙耶ちゃんのお父さんたちがこの町にすっごく大切なことをしているよ！一つはボランティア活動とかしてるじゃん！」
「南さん？・・・何してるの？」
「うん？ちょっと待っててね」
「悪い人たちが来ないか町の外で見張りだってしているんだよ！そ

れをヤクザヤクザってうるさいな！こっちはちょっとでも話のネタを作ろうと思って絵本ずっと読んでたのに邪魔ばっかしてさぁ、何？そんなに私に蹴られたいの？マゾなの？ん？」

まぁ、幼稚園児こんな事言ったってなんの意味もないことくらいわかるけどさ圧力掛けてたほうが後が楽になるからね今のうちにしておいただけさ。

幼稚園児にキレた・・・・・・後悔はしてない・・・・・・たぶん・・・・。

まぁそれから沙耶ちゃんにイジメなんて起きなくなったからこれで一件落着したけどまだまだ事件は起こる気がして仕方がないよ・・・。麗ちゃんのお父さん警察の人だったよね？今度からお世話になろうかな？　後それと、小室君や麗ちゃんは登場せずに砂場で遊んでいたのね・・・・。

「あの？南さん？」
「ん？なになに？沙耶ちゃん」
「さっきはありがとう」
「大したことしてないよ！沙耶ちゃんこそ良く泣かずに堪えていられたね！えらいえらい！」
「グスン・・・グスン・・・」

あらら、もう我慢の限界だったみたいだね、にしても幼稚園児なのによく我慢してたなぁ見直したよ沙耶ちゃん、

私は沙耶ちゃんをゆっくり抱きしめてあげた・・・沙耶ちゃんはリミッターが外れたみたいにいきなりすごい大音量で泣いた。私はただ、沙耶ちゃんの頭をなでるだけして泣き疲れて寝るのを待った。

後で私が泣かしたと勘違いされて園長先生にこっぴどく叱られた

のは秘密？

第一話　南　玲菜　誕生！（後書き）

初投稿なのでミスがあったら感想で言ってください修正してよりよい作品にしていきますのでどうぞよろしくお願いします。
最後までお読みいただきありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4494ba/

学園黙示録　HIGHSCHOOL OF THE DEAD ～前世から受け継いだ私の気持ち～

2012年1月12日01時57分発行